

# 恐竜への憧れが育む、これからの大学の在り方

及川知穂

大学や学部の統廃合の推進や運営交付金の減額など、国公立大学の運営にとって厳しい状況が続く中、各大学は学生を継続的に獲得する目的で、様々な戦略立案を進めている。その一つとして、福井県立大学で進められている恐竜学部という新学部設置の計画が挙げられる。県立の恐竜博物館を有する県の強みを活かした構想だ。恐竜学部では何を学ぶことができ、どのように大学の存続に貢献し得るのか。今回、その構想について福井県立大学恐竜学研究所所長の西弘嗣さんにオンラインでインタビューした。



図 1 福井県立大学恐竜学研究所所長 西 弘嗣さん (\*1)

## 新学部での学びの魅力に迫る

新学部が設置されるからには、そこでは他の学部では学べないことが学べるのが期待されるだろう。そこで、恐竜学部で学ぶ意義や魅力などについて聞いた。

— 恐竜学部でしかできないような研究や教育として、どのような内容を想定していますか。

名前から恐竜の研究だけをする、というイメージを持たれるかもしれません。しかし、他の理系分野の学問と同様に、恐竜学にも古生物学、地質学、環境学が含まれていて、物理化学から生物学にいたるまで、自然科学全般をある程度基礎知識として持っている必要があります。自然科学を学ぶことは防災や土木建築、環境保全の分野など、産業界で幅広い応用が効きます。そこで、我々は特に野外を中心とする自然科学教育をすることで、自然の状況をトータルに把握して温暖化などの課題に対応できるような人材を育成することを目的に設定しています。その中の一部が、恐竜という福井県のコンテンツを支える研究者になるだろうと考えています。

もう一つ、現在はデジタル科学の重要性が増しています。古生物学の分野でも、デジタル技術が扱えないと新しい研究はほとんどできません。そこで、デジタルデータの取り方、処理の仕方、その活用法を教え、デジタル人材の育成にも貢献したいと考えています。

— それでは、幅広い自然科学分野を学びながら恐竜も学べる、というところに他の自然科学系の学部との差別化のポイントがあるということなのでしょうか。

今、調査に時間がかかることから、地質学の分野では野外に行って卒業論文を書けるところは全国的に非常に少なくなっています。ですから、野外での活動を中心に据えている点で差別化につながっています。また、生物系でデジタル処理を専門的に学べることも恐竜学部の強みになると思います。

— フィールドワークに力を入れたいとのことでしたが、フィールドワーク先としてはどのような場所を想定しているのですか。

恐竜学部の施設は県立恐竜博物館に隣接した、自然に囲まれた立地に建設される予定で、題材はいくらでもあります。海外の共同研究者との共有発掘現場での実習も行いたいと考えています。



図 2 フィールド調査のイメージ (福井県立大学提供)

福井県には、古生代のシルル紀から中生代、新生代までの地層が残されている。(\*2)  
雪深い土地柄のため、県内での実習は夏期に集中して実施したいとのことだ。

幅広い自然科学の分野を「恐竜」というテーマの下、一つの学部で学べるような統合を試みている点や、フィールドワークやデジタル処理の経験を積める点が恐竜学部の魅力と言えるだろう。具体的には、フィールドワークでは化石発掘や化石のクリーニング技術、デジタル処理教育の分野では古生物の3Dモデル構築の技術などが学べるのが打ち出されている。さらに、県立恐竜博物館との連携を強化することで博物館展示のデザインや案内の経験を積める環境の整備も予定されており (\*3)、恐竜に関心がある人にとってはまさに理想

的なカリキュラムが用意されつつある。

## 設立構想を通じて実現する地域貢献

恐竜を中心に、自然科学に対する関心が追究できる環境を整えることはもちろん、社会に貢献する人材育成を目指しているということから、さらに、恐竜学部が想定している社会貢献の形についても尋ねた。

### — 設立に対して地域住民からのリアクションなどはあるのでしょうか。

さまざまな意見を頂いておりますが、賛成の声や期待の声の方が大きいという気がしています。

具体的には、建設業や測量、情報産業の分野の関係団体と情報交換した結果、人材や共同研究先を必要としているという意見がありました。また、キャンパスが建設される予定の勝山市で実施している、高校や中学校の探究学習支援や PTA 講演会でも学部設立に好意的な反応が得られました。

### — 地域貢献を目指しているとのことでしたが、恐竜学部を卒業した学生には県内や地方に留まってほしいという気持ちはあるのでしょうか。

学生が都会に出たいということを抑えることはできません。そこで、いかに地元に残っていただける魅力があるということを打ち出せるかを、大学全体だけではなく県全体として考えなければいけません。我々は公立大学ですから、当然、そのことを視野において、どのような地方貢献ができるかということ産官学で考えなければいけません。

例えば、県の中で恐竜を使った産業が起これたら、県内に定着する人が増えてきます。あるいは、恐竜を趣味に持って、福井に住んでもよいと思う人が増えてきます。そのような人が増えてくると新たな人の定着につながります。色々な知恵を出しながら地域貢献に興味のある人材をどれくらい集められるか、これからの教育機関に求められていると思います。産業を興すことも地域貢献になります。

今回のインタビューを通じて、恐竜学部の設立構想が地域貢献の精神に根ざして進められている様子が浮かび上がってきた。大学存続の鍵は、大学の事業を支援してくれる行政や企業に貢献する視点を忘れないようにすることにあるのかもしれない。

なお、恐竜学部は 2025 年 4 月に設置予定であるが、現段階では名称やカリキュラム等の内容は仮称・構想中である。今後は、文部科学省への認可申請を行い、その結果が伝達されるのは、早くとも今年の 9 月である。恐竜学部設置の計画が実現することを楽しみにした

い。

【西 弘嗣 (にし・ひろし)】

九州大学大学院理学研究科博士後期課程修了。理学博士。北海道大学理学研究院教授、東北大学学術資源センター長などを経て、2020年から現職に就く。古生物学、地質学、古環境学を専門とし、研究活動では有孔虫の微化石や同位体による地層の年代決定や地球の環境変動を明らかにする研究に取り組んでいる。

【出典】

\*1 福井県立大学恐竜学研究所 HP

<https://idr->

[fpu.jimdofree.com/%E6%95%99%E8%81%B7%E5%93%A1/%E6%89%80%E9%95%B7-%E6%95%99%E6%8E%88-%E8%A5%BF-%E5%BC%98%E5%97%A3/](https://idr-fpu.jimdofree.com/%E6%95%99%E8%81%B7%E5%93%A1/%E6%89%80%E9%95%B7-%E6%95%99%E6%8E%88-%E8%A5%BF-%E5%BC%98%E5%97%A3/)

\*2 「公立大学法人福井県立大学古生物関連学部の設置に関する有識者会議」の提言を踏まえた大学としての新学部構想 (2022年)

<https://drive.google.com/file/d/16IVyueA1dutnFrzvW5QmumPOPERfNRN-/view>

\*3 福井県立大学恐竜学部 HP

<https://dinofaculty.jimdofree.com/>